

令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 城野 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和元年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
本市	16.56	20.49	33.51	42.17	52.49	9.39	153.34	22.91	54.52

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59
本市	16.49	19.55	38.14	40.49	42.02	9.64	147.47	13.79	56.34

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
○「運動やスポーツをすることは好きですか」について、肯定的な回答をした児童は男女合わせて89%と、やや全国平均を下回る結果ではあるが、多くの児童が体を動かすことに関心・意欲が高いと言える。 ○「体育の授業は楽しいですか」について、肯定的な回答をした児童は男女合わせて91%であり、概ねどの運動領域でも楽しく学習することができている。 ●学校の体育科の学習以外で運動をしている児童の割合は、全国や本市の平均を下回っている。改善に向けて、運動場に「運動に親しむ場」を常設し、職員が休み時間等に児童に声をかけて一緒に運動するなど、習慣作りを行うための啓発を行っていく。 ●「ふだんの体育の授業では、授業の始めに授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」について、肯定的な回答を示した児童が全国や本市の平均を下回っている。楽しく活動するだけでなく、より児童が学習のねらいを意識するような、掲示・体育カードの工夫などが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○体育授業の準備運動では、体力向上プログラムを活用しジャンプアップ運動又はキッズダンスを必ず行うようにする。また、25分間以上の運動量を確保する。 ○学習のめあてや1時間の流れを児童が理解するとともに、学習の成果を振り返ることができるように、主に器械運動の領域において「体育カード」を作成し、使用する。また、今年度有効であったカードを集約し、来年度以降も当該学年が使えるようデータの管理を行う。 ○北九州高校体育コースの生徒を招き、バスケットボール大会や陸上記録会に向けて指導してもらう場を設定する。
--

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

○一校一取組として、年間をとおして、各学年の体育や特活の時間に、スポコン広場の「みんなでなわとび」に取り組む。3学期に、縦割りグループによる「なわとびチャレンジ大会」を実施する。 ○運動場に「運動に親しむ場」(ドッジボールコート・サッカーコート・バスケットボールコート・トラック)を常設し、放課後の運動場開放の呼びかけを行う。さらにボール等の貸し出しなど運動の機会を設けることで、運動時間の増加、運動に対する意識の向上を図る。 ○下校時間を早め、放課後運動場を開放することで、授業時間外に児童が運動に親しむ時間と場所を確保する。 ○北九州高校体育コースの生徒を招き、城南中学校2年生と合同で新体力テストに向けての練習や測定を行う。また、朝休みの時間を活用し、新体力テストに向けた体力アップの場を設定する。
